

平成29年度
登別市デンマーク友好都市
中学生派遣交流事業
研修報告書



目次

○登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業の概要・・・・・・・・・・	1
・事業概要	
・研修日程表	
・派遣生徒・引率者・ホストファミリー名簿	
・派遣日程表	
○研修テーマ・・・・・・・・・・	7
デンマークのお菓子について	
登別市立鷺別中学校	1年 宮下 夏乙
デンマークと日本の気候と生活の違いについて	
登別市立登別中学校	2年 辻 桃菜
デンマークの食べ物について	
登別市立緑陽中学校	1年 飯尾 拓翔
デンマークの学校の様子について	
登別市立緑陽中学校	2年 對馬 凜胡
デンマークの音楽について	
北海道登別明日中等教育学校	2回生 森元 紫乃
○感想文・・・・・・・・・・	12
宮下 夏乙 : 初めての旅行	
辻 桃菜 : とても楽しかった旅	
飯尾 拓翔 : ホストとの楽しい日々	
對馬 凜胡 : 充実した七日間	
森元 紫乃 : 一生に一度の体験	
○引率者報告書・・・・・・・・・・	17
団 長：小野 島 晶 登別市教育委員会教育部学校教育グループ学務主幹	
引率者：桐 敦子 登別市立鷺別中学校教諭	
○帰国報告会資料[派遣生徒]・・・・・・・・・・	30
○帰国報告会資料[引率者]・・・・・・・・・・	80

事業概要

○ 事業概要

1 目的

登別市の中学生を友好都市のデンマーク王国ファボー・ミッドフュン市に派遣し、青少年との交流や日本とは異なる生活・文化の体験を通じ、生徒の豊かな人間性と広い視野を育むとともに、ファボー・ミッドフュン市との交流を推進することを目的とする。

2 訪問国及び都市

デンマーク王国：コペンハーゲン市、オーデンセ市、
ファボー・ミッドフュン市

3 派遣期間

平成29年8月12日（土）～ 19日（土）：7泊8日

4 交流内容

表敬訪問：ファボー・ミッドフュン市役所

学校訪問：リングフリー校、ノーアエア校

施設見学：アンデルセン博物館、レゴランド、イーエスコー城、
森の幼稚園、老人ホーム、図書館

5 研修内容

(1)結 団 式：平成29年7月3日（月）

(2)事 前 研 修：平成29年7月10日（月）～8月8日（火）計10回
デンマークの概要の学習、研修テーマの決定、英会話、
デンマーク語、登別の紹介・歌・踊りの練習など

[講 師 等]

派遣OB：松本 理加 [H28年度：登別市立幌別中学校]

菅原 美羽 [H28年度：登別市立鷺別中学校]

松辻 一葉 [H28年度：登別市立鷺別中学校]

京谷優太郎 [H28年度：登別市立鷺別中学校]

棟方 智華 [H28年度：登別市立西陵中学校]

鶴田 佳子 [H28年度：登別市立緑陽中学校]

森川 海輝 [H28年度：登別市立緑陽中学校]

藤代 めい [H28年度：北海道登別明日中等教育学校]

斎藤 智弥 [H28年度：登別市立西陵中学校英語教諭]

(3)事 後 研 修：平成29年8月25日（金）～ 9月26日（火）計6回
研修成果まとめ、感想文提出、帰国報告会準備

(4)帰国報告会：平成29年9月27日（水）

○ 研修日程表

月 日	内 容		会 場	時 間
07月03日(月)	結団式・第1回保護者説明会		市民会館/小会議室	18:00~19:30
07月10日(月)	事前研修①	デンマークの概要説明、研修テーマの発表、役割分担(リーダー・登別紹介・司会)、アトラクションの内容決定	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月12日(水)	事前研修②	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月14日(金)	事前研修③	英語・デンマーク語、アトラクション練習 手紙の書き方	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月18日(火)	事前研修④	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月21日(金)	事前研修⑤	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月23日(日)	事前研修⑥	派遣団OBとの懇談会	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
07月26日(水)	事前研修⑦	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
07月27日(木)	事前研修⑧	英語・デンマーク語、アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
07月31日(月)	事前研修⑨	アトラクション練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月03日(木)	市長へ出発挨拶(派遣者)		市役所/市長応接室	16:00~16:30
08月07日(月)	第2回保護者説明会(保護者)		市役所/第2委員会室	18:00~19:00
08月08日(火)	事前研修⑩	最終打ち合わせ、総練習	市民会館/視聴覚室	09:30~12:00
08月12日(土)	デンマークへ出発		市役所/裏駐車場	05:15~
08月19日(土)	デンマークから帰国		市役所/裏駐車場	17:30頃
08月23日(水)	市長へ帰国挨拶		市役所/市長応接室	16:30~17:00
08月25日(金)	事後研修①	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月01日(金)	事後研修②	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月12日(火)	事後研修③	報告書作成	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月15日(金)	事後研修④	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月21日(木)	事後研修⑤	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月26日(火)	事後研修⑥	帰国報告会準備	市民会館/視聴覚室	16:30~18:00
09月27日(水)	帰国報告会		市民会館/大会議室	18:00~19:30

○ 派遣生徒・引率者名簿

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立鷺別中学校	1年生	宮下 夏乙
登別市立登別中学校	2年生	辻 桃菜
登別市立緑陽中学校	1年生	飯尾 拓翔
登別市立緑陽中学校	2年生	對馬 凜胡
北海道登別明日中等教育学校	2回生	森元 紫乃

引率者	団 長	登別市教育委員会教育部 学校教育グループ 学務主幹	小野島 晶
	引率教諭	登別市立鷺別中学校	桐 敦子

○ ホストファミリー名簿

派遣者名	ホスト名	性別	家族構成
宮下 夏乙	Kirstine Lin Tornelund キルスティン・リン・トーネルン	女	父 キム 母 マイブリット 弟 リカート
	Amalie Vestegaard Frederiksen アマリエ・ヴェスタゴー・フレデリクセン	女	父 ジョニー 母 アンヌ 姉 ソフィエ 姉 マリエ
辻 桃菜	Kathrine Hvidverg カトリーネ・ヴィズベア	女	父 ソレン 母 メッテ 弟 マティルデ
	Rasmine Overgaard Storm ラスミネ・オヴェルゴー・ストルム	女	父 モートン 母 ロネ 兄 オスカー
飯尾 拓翔	Ole Husted Sylvest オレ・フステズ・シルヴェスト	男	父 テュイエ 母 スサヌ 姉 マイヤ 姉 カーラ
	Anton Hesselbjerg Spejlsgaard アントン・ハッセルビエア・スペルスゴー	男	父 イェンス・エリク 母 カリ 弟 ノア
對馬 凜胡	Laura Boye ローラ・ボイ	女	父 ピーター 母 カリナ 姉 クララ
	Mads Brandt Frederiksen マス・ブラン・フレデリクセン	男	父 リネ 母 レナ 姉 ミレ
森元 紫乃	Sophie Bang Pedersen ソフィ・バン・ペダスン	女	父 ステイーン 母 ヘレ 妹 ナナ
	Julie Aksgaard Seier Købke ユリエ・アスゴー・セイ・コプゲ	女	父 ミカエル 母 レネ 姉 ルイース 兄 アナス
団長 小野島 晶 引率教諭 桐 敦子	Alexander Pustelnik アレキサンダー・プステルニク	男	父 ソレン 母 エリン 妹 エマ 妹 ジョゼフィン

○ 派遣日程表

月日	行程	内容	食事	宿泊
8/12 (土)	市役所 ⇒ 新千歳空港 05:30 06:40	《1日目》 05:15 市役所裏玄関に集合 05:30 市バスで新千歳空港へ 06:40 新千歳空港到着後、搭乗手続き	機内	ホテル
	新千歳空港⇒ 成田空港 07:50 09:25	07:50 全日空(NH2152便)で成田国際空港へ 09:25 成田国際空港着後、出国手続き		
	成田空港 ⇒ コペンハーゲン 空港 11:10 15:30 (現地時間)	11:10 スカンジナビア航空(SK984便)でコペンハーゲン空港へ (約12時間20分) 15:30 コペンハーゲン空港到着後、入国手続き、税関審査。 空港から駅へ徒歩移動		
	コペンハーゲン ⇒ コペンハーゲン 空港駅 中央駅 17:35 17:48	17:35 空港駅から列車(RE1083)でコペンハーゲン中央駅へ 17:48 コペンハーゲン中央駅到着		
	コペンハーゲン ⇒ ホテル 中央駅 18:00 17:50	17:50 駅からホテルへ徒歩移動 18:00 ホテルチェックイン ホテル名：コンフォート・ホテル・ヴェスターブロ		
8/13 (日)	ホテル ⇒ コペンハーゲン 中央駅 09:00 09:15	《2日目》 09:00 ホテルチェックアウト コペンハーゲン中央駅へ	ホテル	ホスト
	コペンハーゲン ⇒ オーデンセ駅 中央駅 11:08 09:52	09:52 コペンハーゲン中央駅から列車(ICL51043)に乗車、 オーデンセへ 11:08 オーデンセ駅到着	派遣 交流団	
	オーデンセ市内	11:08～アネさんの案内でオーデンセ市内を見学		
	オーデンセ駅 ⇒ リング駅 15:13 15:29	15:13 オーデンセ駅から列車(RE4649)に乗車、アネさんとともに リングへ向かう 15:29 リング駅着 ホストファミリーと対面し、各家庭へ	ホスト	
8/14 (月) ～ 8/17 (木)	ファボー・ミッドフュン市内	《3日目～6日目》 ・ホストファミリーと過ごす(8/14～8/17) ・レゴランド見学(8/14) ・ノーアエア校訪問、森の幼稚園訪問(8/15午前) ・ファボー・ミッドフュン市役所表敬訪問(8/15午後) ・図書館、老人ホーム訪問(8/15午後) ・リングフリー校授業参加(8/16午前・8/17) ・イーエスコー城見学(8/16午後) ・リングフリー校にてお別れパーティ(8/17夕方)	ホスト	ホスト
8/18 (金)	ホスト宅 ⇒ リング駅 09:00	《7日目》 それぞれホストファミリー宅からリング駅に向かう 09:00 リング駅到着	ホスト	機内
	リング駅 ⇒ オーデンセ駅 09:29 09:45	09:29 ホストファミリーやお世話になった方々に別れを告げ リング駅から列車(RE4624)でオーデンセへ 09:45 オーデンセ駅着		
	オーデンセ駅 ⇒ コペンハーゲン 中央駅 09:51 11:05	09:51 列車(RE022)に乗り換え、コペンハーゲン中央駅へ	派遣 交流団	
	コペンハーゲン ⇒ コペンハーゲン 中央駅 空港駅 11:16 11:28	11:16 列車(IC1344)に乗り換え、コペンハーゲン空港駅へ 11:28 コペンハーゲン空港駅到着後、空港まで徒歩移動。 出国手続き。		
	コペンハーゲン ⇒ 成田空港 空港 15:45 09:35 (日本時間)	15:45 スカンジナビア航空(SK983便)で成田空港へ 〔日付変更線〕 (約10時間50分)	機内	
8/19 (土)	成田空港 09:35 (日本時間)	《8日目》 09:35 成田国際空港到着後、入国手続き、税関審査。	派遣 交流団	
	成田空港 ⇒ 羽田空港 11:00 12:10	11:00 成田国際空港から羽田空港までリムジンバスで移動 12:10 羽田空港到着		
	羽田空港 ⇒ 新千歳空港 14:00 15:30	14:00 全日空(NH67便)で新千歳空港へ 到着後、荷物を受取り、市バスに乗車		
	新千歳空港⇒ 市役所 16:30 17:40	16:30 市バスで市役所へ 17:40 市役所到着		

○ 各学校独自の取組について

次の学校では、学校独自の取組として、デンマーク王国での貴重な体験を通して、生徒が現地で学んだことや感じたことを同世代の生徒に発表する場を設けていただき、国際性豊かな人材の育成や本事業のPRに寄与していただきました。

学 校 名	学 年	生 徒 名
登別市立登別中学校	2年生	辻 桃菜
【取組内容】 ⇒9月23日（土）の学校祭において、辻さんがデンマーク王国での体験内容を発表。		

学 校 名	学 年	生 徒 名
北海道登別明日中等教育学校	2回生	森元 紫乃
【取組内容】 ⇒11月17日（金）の全校集会において、森元さんがデンマーク王国での体験内容を発表。		

研修テーマ

デンマークのお菓子について

登別市立鷺別中学校 1年 宮下 夏乙

私は、「デンマークのお菓子」をテーマにして調べてきました。

まずは、デンマークの「チョコレート」です。デンマークのスーパーに行った時、すごくたくさんの種類のチョコレートがあり、びっくりしました。そして、私が試したすべてのチョコレートが美味しくて、また食べたいと思いました。



次に、デンマークのお菓子の売り方で面白いのが、「量り売り」です。ラクリスやグミ、チョコレートなど色々な種類がありました。私のホストファミリーが、チョイスしてくれたものは、どれも美味しかったです。またデンマークに行ったら試したいと思いました。



そして、デンマークの代表的なお菓子といえば、やはり「ラクリス」です。ラクリスとは、甘い薬草の根のエキスを使って作られたもので、とても私たち日本人の口にはあいませんでした。しかし、デンマークの人達にはこれが一番好評でした。最近では、ラクリスにも様々な味があり、フルーツや塩味などがあるそうです。また、ラクリス味のグミやキャンディーもありました。

デンマークのお菓子で、一番多く見かけたものは、やはりラクリスです。そして、チョコレートやグミも多くありました。しかし、デンマークでは、あまりしょっぱいお菓子はあいませんでした。そのせいか、デンマークの人達は、しょっぱいお菓子より甘いお菓子が好きという人のほうが多いのかなと思いました。

私たちがファボー・ミッドフュン市役所を訪問した時に、クリスティアン市長が自分でお菓子と飲み物を配ってくれたのにも驚きました。チョコレートケーキとジュースが出てきて少しびっくりしましたが、とても美味しくて嬉しかったです。日本と違うなと思ったところは、市役所のような場所でお菓子が出てきたことです。



このように、デンマークと日本のお菓子を比べてみると、同じ人間でも、日本とデンマークのように国や生活習慣が違えば、味覚も大きく違うということにとっても興味を持ちました。今度、またデンマークに行く機会があったら、もっとたくさんのお菓子にチャレンジしてみたいです。

デンマークと日本の気候と生活の違いについて

登別市立登別中学校 2年 辻 桃菜

私は、「デンマークと日本の気候と生活の違い」について、いろいろ見てきたので、これらについて紹介します。

まずは、気候について紹介します。日本の気候は、真夏である8月はとても暑く、雨も長く降ります。それに比べてデンマークは昼間太陽が出ていると暑いですが、朝と夜には気温が下がり、長袖のジャンパーなどが無いと、とても寒いです。雨も意外とすぐに止むと聞いていましたが、本当にそのとおりでした。



また、日の入の時間がすごく遅かったです。日本では午後7時には真っ暗になりますが、デンマークでは午後7～8時でもまだ明るく、みんな外で遊んでいました。午後9時ごろには日が落ちて、やっと真っ暗になりました。

次に、デンマークでの生活について紹介します。デンマークのスーパーマーケットは、とにかく売っている物が大きく、小さめのバケツのような容器にヨーグルトが入っていたり、業務用かと思うようなサイズのケチャップが売られていたりして、それをホストの家で普通に使っていたのが面白かったです。買い物のカゴは、日本のように手に持たず、カゴそのものに車輪が付いていて、そのまま店内を引いて歩き、商品を入れていました。お会計の時は、お客さんが自分で、買う物をベルトコンベアに乗せていました。そしてお金を払うと、小銭のお釣りは機械から出てきました。お釣りを手で渡される日本のやり方に慣れているので、機械からお釣りが出て、それをお客さんが自分で取るのが新鮮でした。

それから、一緒に行った派遣団のメンバーのおかげで、誕生日の祝い方の違いも知ることができました。誕生日の子がいる日には、朝、家族みんなで歌を歌いながら、その子を起こしに行き、ベッドの上でプレゼントを渡し、朝ご飯の時には小さめの少しだけ甘いケーキを食べ、夕食の時には大きいバースデイケーキを食べたそうです。ちなみに、誰かの誕生日を祝う日は、テーブルクロスや紙ナプキン、ロウソクもデンマークの国旗の柄の物で統一されていたそうです。みんなでダンスを踊るゲームをして、とても楽しかったそうです。



このように、日本とデンマークにはいろいろな違いがあつてとても興味深かったです。

デンマークの食べ物について

登別市立緑陽中学校 1年 飯尾 拓翔

私は、「デンマークの食べ物」をテーマに調べてきました。一週間で食べた朝食と昼食は、たいてい似たような物が出てきました。具体的には、朝にシリアル、昼はサンドウィッチです。サンドウィッチのライ麦パンは、とても酸味が強くて、ぼくの口にはあいませんでした。昼食には、にんじんが出ることもあり、日本のものより甘かったけれど、生なので、少し抵抗がありました。



朝や昼は、同じような物が多かった半面、夕食は、一週間の中で種類が重なったことはありませんでした。そこで、私は、一週間の夕食の中で美味しかった食べ物をランキングにしました。

まず夕食ランキング3位は、黄色くて、薄味のカレーのようなソースがかかったミートボールです。実際、味もカレーのようでした。これは、ホストファミリーの家で初めて食べた物だったので、とても印象に残りました。

夕食ランキング2位は、やはり、ホストステュudentの家で食べたフランスパンに似たパンです。とてもかたかったけれど、ホストマザーが手作りしてくれた物だったし、かすかににんにくの風味がして、これまで食べたことの無い味で、とても美味しかったです。



夕食ランキング1位は、「フリカデラ」という小さなハンバーグのようなものです。とても美味しくて、つい日本語で「美味しい!」と言ってしまったほどです。けれど、それがみんなに伝わったのか、ホストマザーも喜んでくれて、別れの日のお昼にもサンドウィッチにはさんでくれました。これは、どの夕食よりも美味しかったし、一番印象に残る食べ物でした。9月の「幌別地区手づくり祭り」でも食べることができ、とても美味しかったので、また、食べたいです。

一週間の写真を見返すと、魚の入った食べ物はありませんでした。スーパーなどでは売っているかもしれませんが、ふだんはあまり魚を食べないということを知ることができました。この一週間、いろいろな食べ物を見たり、食べたりしたけれど、美味しいものもあれば、正直口に合わない物もありました。やっぱり普段口にしている日本食が一番美味しいと実感できました。



デンマークの学校の様子について

登別市立緑陽中学校 2年 對馬 凜胡

私は、「デンマークの学校のように」について、調べてきました。色々な面白い発見や日本との違いがあったので紹介します。

まずは、学校の設備についてです。日本の学校では、体育館はたいてい1つしかありませんが、私たちの訪問したリングフリー校には、目的別に2つ以上の体育館があったり、体育館と同じくらいの広さの音楽ホールもあったりしました。さらに、体育館には、トランポリンやマットなど、珍しいものがたくさんありました。また、廊下には、ボルダリングや筋トレ用のマシンのようなものもいろいろ置いてありました。



次に、リングフリー校での、授業の受け方、教室や生徒の様子について紹介します。日本の中学校では、学級担任が校長先生だということは、あまり聞いたことがありません。しかし、私たちが見学した7年生のクラスの担任の先生は、同



時にこの学校の校長先生でもありました。教室は、ガラス張りの壁で明るく、きれいな庭の様子も見られて、とても良い環境が整っていると思いました。一番驚いたことは、手の挙げ方です。日本では手を、じゃんけんのパーの形で挙げるのが普通ですが、デンマークでは、人差し指を挙げていました。そして、どの生徒も積極的に発言していました。

休み時間になると、持参したお弁当のリンゴやにんじん、サンドウィッチなどを食べたり、外にある公園のような設備で遊んだりする人もいました。今流行のハンドスピナーを持ってきている人や、ピアス、ネックレスなどを着け、化粧をしている人もいて、驚きました。

最後に、学校について調べてみて感じたことは、日本では考えられないようなことでも、外国に出てみると当たり前のこともあるのだなということです。日本では校則があり、身だしなみには厳しいですが、デンマークでは、自由なところが特徴だと思います。学校の運動設備には、驚くことばかりで、登別の学校にもあればいいのに、と思いました。日本とはまったく違うデンマークの学校について、もっとよく知りたいと感じました。



デンマークの音楽について

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 森元 紫乃

私は、「デンマークの音楽」について調べました。デンマークで私が体験したことをもとに紹介します。

まず、リングフリー校での朝の集会を紹介します。全学年がホールに集まって、歌を6曲程歌います。その中に『学校が始まる〜♪』のような歌詞の歌があったり、日本の「さくら、さくら」を日本語とデンマーク語で歌ったりしていました。ホールにはたくさんの楽器があり、ギターや電子ドラムなどもありました。歌の伴奏はピアノとバイオリンでした。



次に、ノーアエア校の生徒と音楽をテーマに交流したことを紹介します。私と凜胡さんはノーアエア校の生徒と、自分の国で人気の曲を紹介し合う交流をした後、学年のみんなにも紹介しました。私と凜胡さんは、嵐やSMAP、星野源などの説明をしました。ノーアエア校の生徒は、デンマーク人の歌手を紹介してくれましたが、デンマークの人達が日本人歌手を知らないように、私たちもデンマーク人の歌手を初めて知りました。ですが、私たちも知っているような世界的に有名な歌手、例えばジャスティン・ビーバーやアリアナ・グランデ、テイラー・スウィフトやブルーノ・マーズはデンマークでもとても人気があるということが、この交流でわかりました。また、ホストとCDショップに行ったり、ホストの家やお別れパーティで音楽に合わせて踊ったりしました。CDは1枚59.95クローネ、日本円で約千円です。デンマーク人の歌手からイギリス人歌手まで種類は豊富でした。

Wiiのゲームではデンマークの歌に合わせてダンスを踊りました。その他、ピコ太郎の「PPAP」もみんな知っていて踊ることができました。

デンマークでは音楽がとても身近にあって、たくさんの人が集まると、音楽を流して盛り上がっていました。とても楽しくてにぎやかな国でした。



感想文

初めての旅行

登別市立鷺別中学校 1年 宮下 夏乙

私にとって、今回のデンマークへの訪問は、初めての海外旅行のため、少し緊張する中、スタートしました。



デンマークに向かう飛行機の中で、「英語が伝わらなかったら・・・」「ホストと仲良くなれなかったら・・・」など、デンマークでの生活は、楽しみでもありましたが、不安もあり、少し心配でした。

デンマークに到着後、飛行機から降り、空港から列車でコペンハーゲン中央駅に向かっている最中、とても美しいデンマークのレンガ造りの街並みが窓から見えた時、とても感動しました。その他、とてもびっくりすることや感動することが数えきれないくらいありました。あいにく、チボリ公園は雨で、とても寒かったですが、とても良い経験

となりました。その日は、疲れて、ホテルのベッドでぐっすり眠れました。そして、いよいよホストと会う日。少し緊張しながら、おそろおそろ「Nice to meet you」と握手をしました。あの場面は、一生忘れません。

その後、ホストファミリーの家へ。ホストファミリーの家はすごく変わっていて、日本ではたくさん物を置いてある家がほとんどですが、デンマークはすごくシンプルで、部屋の中の物がとても少なく、全体的にすっきりしていました。庭にはトランポリンや遊具があり、ベリーの一種のボンベアが植えられていました。

そして、忘れられないのが、ホストと行ったレゴランドです。あまり怖いアトラクションには乗りませんでしたが、そこでも会話がはずみ、とても良い経験になりました。

デンマークを発つ前日。ホストファミリーはショッピングセンターに連れて行ってくれました。そこでもデンマークの人の優しさにふれることができました。

そして、ついに最後の日。ホストとはなれるのはさみしかったです。また会えるといいなと思いました。

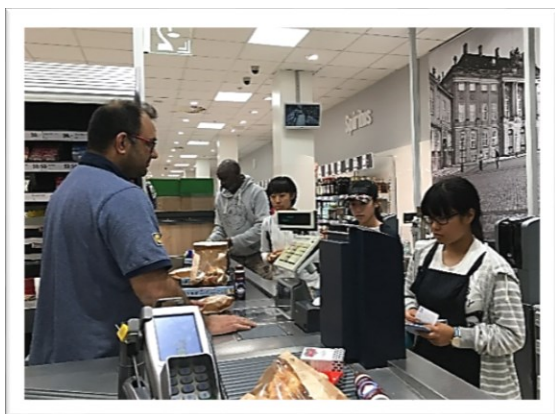
帰りの飛行機の中で、ホストと英語で話したことをふり返っていました。自分の英語が思った以上に通じたことが、すごく嬉しかったです。この経験を通して、外国の方ともっとたくさん話してみたいと思い、よりいっそう英語の勉強を頑張ろうと思いました。また機会があればぜひデンマークに行きたいです。



とても楽しかった旅

登別市立登別中学校 2年 辻 桃菜

私は、デンマークに行く前には、英語を使ってコミュニケーションを取れるかが心配でした。しかし行ってみると、意外に中学校で習う単語などがたくさん出てきたし、私にもわかるようにゆっくりと話してくれたので、まったく心配せずに楽しむことができました。他にも、簡単なデンマーク語が通じて嬉しかったです。



デンマークでは、とても楽しいことがたくさんありましたが、その中で特に2つ印象に残っていることを紹介します。

まず1つめは、ホストステューデントたちとの生活です。デンマークに着いた翌日に、日本人とデンマーク人で集まって遊びました。庭がとても広くて、トランポリンなどをしました。3

日目、5日目も集まってサッカーをしたり、デンマークの曲や日本の「恋ダンス」を踊ったりしました。他には、ホストファミリーの別荘に行きました。別荘はお金持ちだから持っているわけではなく、ホストファミリーのような普通の家族も海の近くに小さな家を持っていました。みんなでご飯を食べたり、寝る前にココアとお菓子を食べながら、その日あったことを話したりしたことが良い思い出です。

2つめは、レゴランドとチボリ公園というテーマパークに行ったことです。レゴランドでは、あまりアトラクションには乗りませんでしたが、買い物をたくさんしたり、レゴで出来た建物を見たりしました。動くレゴや水の上に浮かんでいるレゴもあり、ブロックで作ったとは思えないほどでした。他にはホストと食べたアイスクリームがとても美味しかったです。チボリ公園では、日本人だけでたくさんのアトラクションに乗りました。私は、フリースローというアトラクションが一番怖かったです。かわいいデザインのおみやげもたくさん売っていました。

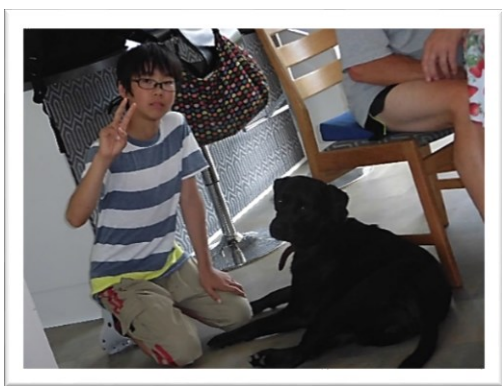
デンマークには、美味しい食べ物がたくさんあり、また、ホストをはじめ、出会った人みんながとても優しく、親切でした。今回デンマークで過ごした7日間の思い出は、私にとって一生の宝物となるでしょう。



ホストとの楽しい日々

登別市立緑陽中学校 1年 飯尾 拓翔

ホストと初めて会う日、ぼくは、自分のホストファミリーがどういう人達なのか想像できなくて、とても心配でした。リング駅に着いたとき、まず、ぼくは、自分のホストファミリーを探しました。すぐには分からなかったのが不安でしたが、実際に会ってみると、とてもやさしい人達でした。たとえば、初めて会った時、ぼくは、つい日本語で「こんにちは」と言ってしまいましたが、それに対し、ホストは、日本語で「こんにちは」と笑顔で返してくれて、その時からやさしい人達で良かったと思いました。



ホストファミリーの家に着くと、日本とは比べ物にならないくらい大きい家でびっくりしました。家には、犬や猫、ニワトリなどの動物がいたり、庭には、プルーンの木があったり、野菜を育てていたりして、豊かな自然に囲まれとてもいいところでした。庭にあったプルーンは、お昼の弁当に入れてくれて、自分で取った庭のジャガイモはフライドポテトにしてくれました。

そして、ぼくのデンマークでの一番の思い出は、レゴランドに行ったことです。ホストも楽しみにしていたレゴランド、ぼくもとっても楽しみでした。ぼくは、ホストとその友達と一緒に周り、ジェットコースターやウォータースライダーに乗ったりして、ホスト達ととても仲良くなったので、もう一度行きたいと思いました。

レゴランドから帰ってきたあと、みんなでサッカーをしました。リングフリー校の近くのサッカー場は、全面人工芝だったため、みんなは、はだしでサッカーをしていたけれど、ぼくは、足がいたくなかったので、途中からくつをはいてサッカーをしました。明るい時間が長かったので、気づいたら夜の9時までサッカーをしていました。

この一週間、ホストファミリーと一緒にいたけれど、リング駅で初めて会ったときに思ったとおり、最後までずっとやさしい人達でした。日本人もこんなにやさしい人ばかりだと思いました。またいつかホストと遊べる日がくればいいなと思います。



充実した七日間

登別市立緑陽中学校 2年 対馬 凜胡

初めての海外がヨーロッパで、楽しみな一方、きちんとやっていけるか、とても心配でした。しかし、最後のお別れ会では、とてもさみしくて、帰りたくないという思いが強くなり、終わってみると、とても短く感じた七日間でした。

一日目は、数名のホストステューデントが出迎えてくれました。初めての海外での英会話でとても緊張しました。

二日目は、一番楽しみにしていたホストとの対面でした。どの人がホストなのか分からず、とまどっていた私を見つけてくれて、「これからよろしくね。」と言ってくれました。ホストファミリーの家に着くと部屋の説明などをしてくれたりして、ホストと過ごすことへの不安は、だんだんなくなっていました。



三日目のレゴランドでは、ホストステューデントと紫乃さんとで見て周りしました。レゴでできた像やアトラクションをたくさん見て周り、とても楽しい一日でした。

四日目は、ノーアエア校で紫乃さんと日本の音楽について紹介しました。星野源や嵐などについて紹介しましたが、デンマークの生徒達は日本のアーティストについては、全然知らないようでした。デンマークの音楽についても教えてくれましたが、他の国のアーティストの曲が流行っているそうです。

五日目は、マリンパークのモデルになったイーエスコー城に行きました。とてもきれいなお城で感動しました。

六日目は、今まで練習してきたプレゼン発表の日でした。とても緊張しましたが、温かく拍手してくれて、鬼踊りもお面をつけて一緒に踊ってくれて、とてもうれしかったです。お別れ会では、各ホストが用意してくれた料理を食べて、「PAP」をみんなで踊ったり、卓球をしたりして楽しみました。

そしてついに最終日。列車に乗る前にハグをしてくれた時、すごく寂しくなり、「もっと一緒にいたい。帰りたくない。」という気持ちでいっぱいになりました。

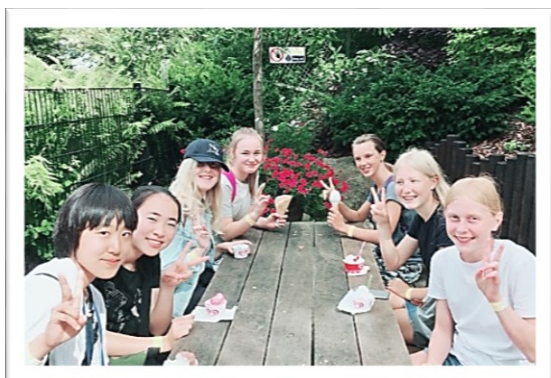
最初は不安しかなかったのに、何日間か一緒に過ごすうちに、少しずつ気持ちが変化していることに気がつきました。本当に楽しくて充実した七日間でした。またデンマークに行ける機会があったら、さらにたくさんの事を学びたいと思います。



一生に一度の体験

北海道登別明日中等教育学校 2 回生 森元 紫乃

派遣団OBとの懇談会の時から、「楽しめるかな」と不安になっていました。英語も苦手なので、ホストファミリーと会うのがとてもこわかったです。ですが、私のホストファミリーはとても優しく、私にたくさんのことを教えてくれました。レゴランドへ行った時も「何を見たい？」と声をかけてくれたり、アイスを買ってくれて、みんなで食べたりしました。また、私の研修テーマである「音楽」のことも教えてくれて、CDを見せてくれたり、リズムゲームをさせてくれたりしました。



そして、一番の思い出は、ホストの誕生日です。たまたまホームステイ中にホストの誕生日があって、デンマークのお祝いのしかたを体験することができました。まず朝には、誕生日の歌でホストを起こしてプレゼントをあげます。私はお土産に多めに用意していった和柄のステッカーやだるま落としなどの伝統的な物をプレゼントしました。喜んでくれたのが嬉しかったです。また、朝も夜もケーキを食べました。とてもおいしかったのですが、日本人にとっては少し大変かもしれません。

また、三日目に行ったレゴランドも思い出のひとつです。デンマークにひかれたのも、私が昔からレゴが好きだったからです。アトラクションの乗り物に乗ったり、みんなで昼食を食べたりしました。リングフリー校の7学年の何人かと一緒に遊んだのですが、みんな私たちに気を使ってくれて、たくさんコミュニケーションを取りながら遊ぶことができました。

今回の研修で、一生に一度の体験をすることができました。デンマークの人にはおもてなしの心がある、と感じました。英語が上手じゃなくても、コミュニケーションを取ろうとする気持ちがあれば伝わるということがわかりました。インターネットなどでは知ることのできないことをいろいろと体験し、とても有意義な時間になりました。ホスト達と連絡先を交換したので、これからもつながりを持ち続けたいと思います。またいつか、ぜひデンマークに行きたいと思いますし、デンマークで関わった人達に感謝を忘れず、いつか恩返しができたらなと思っています。



引率者報告書

平成29年度 登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業を終えて

団長：登別市教育委員会教育部学校教育グループ 小野島 晶

《派遣日程の経過報告》

(1) 8 / 1 2 (土) 1日目 日本～コペンハーゲン

前日は雨模様。心配したが、当日は雨に当たることなく出発できた。全員が5時過ぎに集合し、保護者の皆さんや中学校の校長先生、企画調整グループの方々等の関係者に見送られ、予定より早い出発となった。空港に向かうバスでは、時間とともに会話も始まり、よい雰囲気であった。事前研修からお世話になっている企画調整グループの澤口さんと大高さんも同行してくれたのはありがたかった。

新千歳空港に着くと、旅行会社の小野さんがおり、出発に係る説明等をしていただいた。時間となり、皆さんと別れ成田空港に向かった。

成田では時間を効率的に使い、外貨に換金したり荷物を預けたりすることができた。予想より混雑していなかったのも幸いした。出国の手続きはややぎこちなかったが、スムーズに終わり、いよいよ機上の人となった。12時間の空の旅である。

団員は興奮し過ぎることもなく、心地よい緊張感であった。搭乗すると、当然だが外国人客が多く、機内スタッフもほとんどが外国人であった。初めは戸惑いながらも、座席の前にあるタブレット画面で映画を見たり、ゲームをしたりするなど、それぞれが思い思いに時間を過ごした。団員たちは、寝ようにもなかなか寝付けないでいるようだった。私も映画を3本くらい見たが、それでも時間が有り余るほどで、目を閉じても眠ることはできなかった。

機内食や飲み物の提供時等、スタッフに英語で話し掛けられるが、つたない英語でも何とか通じるものである。

(事前研修が役立った) そうしているうちに、コペンハーゲン到着のアナウンスがあった。急いで、腕時計を現地時刻に合わせた。



空港での入国手続きを無事済ませると、アシストのひとみさんが出迎えてくれた。荷物を受け取り、電車で市内へ移動するが、乗り方がよく分からない。ひとみさんに丁寧に教えていただきながら、中央駅に到着した。自分たちだけでは、とても難しいと感じた。

駅舎を出ると、そこには異文化が広がっていた。人々の様子や街並み、当然だが日本とは全く違う空気である。15分ほど歩き、ホテルに到着。チェックイン等はひとみさんがしてくれ、チボリ公園の入場チケットも購入できた。30分程



度休んでから、チボリ公園へ出掛けることにした。夕方になると、やや冷え込んできた。

さすがは、デンマーク人の憩いの場である。広い敷地に、多彩な催し物、乗り物も多くあった。団員たちは長旅の疲れも見せず、全員フリーパスを購入し、楽しんでいた。しかし、あいにく雨が降り出した。こちらは降っても短時間と聞いていたが、一向に止む気配がない。初日から気落ちしたが、団員たちは意に介す様子もなく、堪能していた。(この後雨に降られたのは帰る前日くらいで、滞在中はほぼ晴天に恵まれた)

21時頃まで滞在したが、なかなか暗くならないのは、聞いていた通りであった。ホテルへの帰途、スーパーに寄り、軽食を購入した。初めての外貨での買い物、しかも実際に対話しながらお金を払う場面である。外国での何気ない生活の一場面を体験できた。ホテルに戻り、明日の朝食時刻を確認して各自の部屋へ別れた。

(2) 8 / 13 (日) 2日目 コペンハーゲン～オーデンセ～リング

一夜明け、ロビーに全員集合した。団員たちは一様におよそ眠れたようで、時差や昨日の雨に当たった影響もなく、ほっとした。朝食会場へは、英語で部屋番号を伝えてから入り、バイキング形式の洋食を満喫した。様々な種類のパンやおかず、野菜等があり、目でも十分楽しめた。この日は移動時間もかなりあるので、全員しっかり腹ごしらえできたことはよかった。



部屋に戻り準備を済ませ、再びロビーに集合し、アシストのひとみさんと合流した。これから帰国までずっとホームステイなのかと少し気後れしたが、何とかなるさと気を取り直してホテルを後にした。

駅に着くと、少し待ち時間があつたので駅舎内を見て回った。昨日は気付かなかったが、日本とはやはりどことなく雰囲気が違う。時間になり出発しようと集まると、列車が遅れているとのこと。何のアナウンスもない。ひとみさんによると、時刻変更は日常茶飯事なので、案内板で常に確認が必要とのことだった。自分たちだけなら全く対応できなかった。さらに、改札がないことにもびっくり。

コペンハーゲンからオーデンセまでは、特急電車。指定席なので座席は心配ない。乗降の際の段差がきついことは聞いていたので、皆で協力してスーツケースを上げ、スムーズに対応できた。ここで、ひとみさんとお別れ。途中海を渡る。天気が良く、最高の眺めであった。

オーデンセに着くと、アネ先生とリングフリー校のホスト生徒がデンマークの小旗で迎えてくれた。徒歩でアンデルセン博物館や彼にちなんだ施設をガイドしてもらいながら見て回った。建物の外観はまさに欧風で、街散策も楽しかった。一緒に行動したが、団員たちもホスト生徒も、この時はまだ距離があった。しかし、少しずつ心の距離を縮めながら時間を過ごした。そして、いよいよ全員で列車に乗り、リングへ向かった。



リング駅に着くと、ホストファミリーやリズィさんをはじめデンマーク協会の方々が大勢で出迎えてくれた。歓迎の言葉をいただいた後、団員は各ファミリーと行動を共にし、あっという間にいなくなっていた。桐先生と私も、まずアネ先生のお宅へ移動し、夕方にホスト宅へ。お世話になるファミリーは、ソレン・エリン夫妻と7学年のアレキサンダー、5学年のエマ、5歳のジョセフィン三人の子どもたち、そして犬二匹と猫二匹である。満面の笑みと温かい握手で迎えられた。持参したお土産を渡したり、会話したりしてあっという間に時間が過ぎた。プレゼントまでいただき、最高の出会いとなった。

(3) 8 / 14 (月) 3日目 レゴランド

昨夜は気疲れもあり、早めに部屋に戻った。メールで市役所へ近況を報告してから就寝した。ぐっすり眠れ、午前5時には目が覚めた。部屋の窓からは、見渡す限りの田園風景。しばし見入る。ゆったりと時間が流れている感じがした。

家を出ると、空気がひんやり。寒いわけではないが、こちらは朝晩の空気がやや冷たく感じる。反面、北に位置するせいか、日中の日差しは強く感じる。

この日は、本場のレゴランドに向かう。リングフリー校に集合し、バスに揺られての移動である。集まった団員たちから話を聞くと、昨夕に全員がホスト生徒とともにバーベキューをしたようで、精神的には楽だったとのこと。また、英語でのコミュニケーションもそれなりにできているようだった。来訪してから間もないので、こういう機会はあるがたいし、ストレス軽減につながるだろうと感じ、ファミリーの心遣いをありがたく思った。

出発から1時間半くらいして、おなじみのブロックのオブジェが見えてくる。この日は、夏休み最終日のせいか、大変混雑していた。それでも、敷地が広大であること、乗り物や施設が充実していることもあり、5時間の滞在時間も長くは感じなかった。幸い天気も良く、存分に楽しむことができた。団員たちは、ホス

ト生徒たちと終始行動を共にし、一気に距離を縮めたようである。この辺りは、やはり言葉など関係ないなと感じた。

時計塔や展示のオブジェ、乗り物や建物、ゴミ箱に至るまで、見るもの全てがレゴであった。テーマパークは、このようにコンセプトが徹底していると、その空間・雰囲気にとっぷり浸かって、心から楽しめるものである。



ほぼ終日屋外にいたせいか、帰宅してからさすがに疲れがどっと出た。部屋で休ませてもらうことを伝え、横になった。明日もハードな一日だ。これからのことも考え、休めるときは休もうと思った。

夕食を知らせる声掛けがあり、目を覚ますと18時半くらいになっていた。昨日は、アネ先生の家で夕食をいただいたので、ファミリーの家での夕食は初めてであった。どれも手の込んだ料理で、大変おいしくいただいた。

気付くと、末娘のジョセフィンがいない。別宅に預けているということで、食後の散歩がてらその家まで皆で迎えに行くことになった。往復1時間くらいは歩いたであろうか。のどかな風景がとても心地よかった。

(4) 8 / 15 (火) 4日目 ノーアエア校、森の幼稚園、図書館、市役所、老人ホーム

訪れる施設が多く、全て徒歩での移動となるこの日は、大変ハードであった。ただ、日本とは異なる雰囲気の街並み、そして空気感はそのな疲れも吹き飛ばしてしまう感じがした。



初めに訪問したノーアエア校は、公立の学校である。翌日訪問するホスト生徒が通うリングフリー校は私立校なので、どんな違いがあるのか興味深く参観した。まず全校朝会に案内されたが、大きな階段のような講堂に子どもたちが集合して座り、何やら教師から説明を受けている場面だった。

その後、7学年の生徒だけ残り、ノーアエア校とリングフリー校、そして我々で顔合わせをした。併せて、この後の予定を確認し、その後校内施設をいろいろ見せていただいた。公立校とは言え、充実した施設であることは一目でよく分かった。

教室に戻った後のグループ学習では、お互いの国の文化を簡単に紹介するという活動を行った。団員たちもグループに交じり、“年中行事（お盆について紹介）”“音楽（星野源の「恋」を恋ダンス付きで発表）”について、調べてから簡単なスピーチを考え、紹介し合った。ただ、限られた時間であったこととグルー

ピングに偏りがあったため、十分な交流にならなかったのは少々残念であった。

ノーアエア校を後にし、ホスト生徒たちとともに森の幼稚園へ向かった。子どもたちは外遊びをしていたが、環境や遊びを通して進める日本の幼児教育とほとんど変わらない感じだった。しかし、遊具は限りなくワールドな感じで、例えばブランコは柵などない。指導者も子ども



たち個々に付いているわけではないので、安全面も自分たちで判断して行動することが求められる。些細なことだが、こういった自由な感じがこちらの特長で、何かと細かい配慮が求められる日本とはずいぶん違うなと感じた。

もちろん、子どもたちは国が違って変わりはない。言葉は通じないが、遊びが共通言語のようなものである。団員たちの子どもたちへの主体的な関わりがあまり見られなかったので、私が手本を見せた。と言っても、小さい子たちと進んで関わっただけであるが…。じきに団員たちも慣れ、ちびっ子たち相手に所狭しと駆け回っていた。

昼食後は、図書館へ。しゃれた外観の建物で、内部もゆったりした空間となっていた。豊かな時間を過ごすための施設、というのが正直な感想である。近辺の街散策の後、図書館裏手の広場に集合し、全員で市庁舎へ向かった。



庁舎では、既にリズィさんがおり、また明日から新学期のリングフリー校に新しく赴任する校長先生も合流した。庁舎内に案内され、ファボー・ミッドフュン市長から温かいもてなしを受けた。

歓迎の言葉をいただいた後、派遣団一人一人にプレゼントをいただき、さらにはケーキと飲み物が振る舞われ、歓談しながらとても楽しい時間になった。私は、小笠原市長から預かった親書と贈り物を市長に手渡し、返礼をいただいた。よく考えると、こうしたつながりを過去20年ほど行っているのである。何気ない交流場面から、その重みを改めて実感した。

最後は、向かいの老人ホームを訪れた。職員に説明を受けながら施設を見せていただいたが、ここで生活されているお年寄りの方々の表情が、この施設での生活の心地よさを物語っていた。社会福祉・社会保障が充実しているデンマークの一端が垣間見えた。

長かったスケジュールを終え、16時半には帰宅し、この日は夜にかけてホストファミリーと充実した時間を過ごした。桐先生と私がお世話になったファミリーは、ご主人のソレンの出勤が朝早い。奥様のエリンは自宅でベビーシッター

のような仕事をし、どちらも慌ただしく働いている。だからかもしれないが、夕方早くソレンが帰宅すると、その後の家族の時間をとても大切にしていることに気付いた。

この日は、夕方から広い庭で会話しながら、たき火を楽しんだ（こちらの国では、庭がものすごく広い戸建ての家が多い）。大きなマシュマロを焼き、ビスケットにはさんで食べたり談笑したりして過ごした。あいにく雨が降ってきたので家に入り、リフォーム中の広いリビングでさらに会話を続けた。昼間歩き疲れたせいか、さすがに眠くなってきたので、21時半頃、挨拶をして部屋へ戻った。

(5) 8 / 16 (水) 5日目 リンゲフリー校、イーエスコー城

ホスト生徒たちが在籍するリンゲフリー校は、この日が新年度のスタートであった。彼らは、今日から7学年ということになる。ファミリーのホスト生徒であるアレキサンダーと一緒に登校した。と言っても、彼の家は学校からやや遠いため、サポートの方の車で送っていただいた。



登校すると、続々と人が集まってくる。そのままホールで朝会が始まった。周囲を見ると、大人も多数いて不思議に思っていたが、すぐに合点がいった。この日は、新年度のスタートであると同時に、新1年生の入学式なのだ。もっと驚いたのは、昨日初めてお会いした新しく赴任された校長先生が、何と7学年の担任だというのである。こんなことは、日本の学校では考えられないことである。



この集まりでは、校長先生からの話や新任の先生の紹介、さらには生伴奏に合わせて数曲を合唱した。こちらでも練習していった“さくらさくら”もあった。日本語とデンマーク語での大合唱であった。

その後、7学年の教室へ。初日なので、いわゆる学級開きが始まった。校長先生が、生徒たちとやりとりをし、おそらく1年の方針等を伝えながら距離を縮めていった。これを横から見ているのは、何とも言えない違和感があったが、教員であった自分には懐かしい雰囲気でもあった。

そして、突如訪れるティータイム休憩。中庭に出て、飲み物と焼きたてのパンが振る舞われる。私立校かどうかは別にして、こういう時間があるのは、何ともユニークである。いたる所で、保護者らが楽しそうに対話する様子が見られた。休憩後は、団員とともにアネ先生に施設を案内していただいた。教室やジム（体

育館)、学生寮等施設の充実ぶりは、目を見張るものであった。

この日は始業日だったので、昼前に学校は終了した。昼食もほどほどに、ホス



トファミリーの車で各自イーエスコウ城へ向かった。どんどん人里離れた土地を進んでいったが、少し開けた土地にその城は姿を見せた。早速、敷地内に入る。アンデルセン博物館ではだめだったが、ここで登別市の証明書が威力を発揮した(団員に係る入場料と城の見学料が免除となった)。

団員たちはホスト生徒と行動し、私たちはアネ先生にいろいろ案内していただいた。レゴランド同様とにかく敷地が広大なので、飽きることはなかった。城の外観は、圧巻の一言。庭もよく整備されていた。派遣団のみ、アネ先生のご主人に城内を案内していただいた。中は、イメージ通りの西洋の城といった感じで、見るもの全てに目を奪われた。

聞いた話では、この城には実際に城主が居住しているとのことだった。その他数々の逸話もあり、謎めいた“あるある感”も満載でとても楽しむことができた。こんなことは、日本ではなかなか経験できないことである。



集合時刻となり、ファミリーご

とに車で帰宅した。いよいよ明日は、登別市のプレゼン発表がある。寝る前に、一通り内容を確認しておくよう団員たちに声を掛けた。練習の成果を存分に発揮してくれることを願った。

帰宅後は、エリンが車でショッピングに連れ出してくれた。こういう心遣いがとてもうれしい。高速道路で隣町に行くと、大きなショッピングモールに着いた。これは日本でもおなじみだ。既にショッピングに連れて行ってもらった団員から話は聞いていたが、こちらで有名な“フライング・タイガー(いわゆる雑貨屋)”等、様々な店舗が入っている。エリンに、デンマークらしい土産物を尋ねながら見て回った。だが、結局はお菓子などの食べ物を購入しただけだった。日中は小さい子を相手にして疲れていただろうし、ちょうど夕飯の支度にかかる時間帯だったので、エリンには大変申し訳なく思った。

(6) 8 / 17 (木) 6日目 リングフリー校 ※朝にプレゼン、夕方にお別れパーティー

早いもので、ホストファミリーに出会って最後の日を迎えた。何となく感傷的な気持ちで朝の支度をした。おはようを言うのも、あと1回しかない…。

8時にリングフリー校に集合し、朝会で登別市のプレゼンを行った。何度も練習した成果が発表に現れており、団員一人一人が、自分のもてる力を出し切っていたことが表情からもよく伝わった。聴衆から大きな拍手をいただき、皆がほっとした表情を見せていた。とても緊張したと思うが、しっかりやりきったことを事後大いに褒めた。



事後大いに褒めた。

ただ、これだけで終わらないのが、今回の派遣団である。プレゼンでは、日本の歌も披露したのだが、その際たまたま機械操作に不得手なリングフリー校の職員にお願いしてしまったせいか、CDの曲がかからないハプニングが発生した。アカペラで歌うはめになったが、

これもよい思い出になった。人間、腹をくくれば何とかなるものである。

ここには、来週登別市に来訪予定のイエスパー君も同席していた。プレゼン後、彼も一緒に、7学年の教室に同行した。この日は、どの教科も授業開きであった。正直、全く分からないデンマーク語の授業を聞いているだけというのは、辛い時間であった。何か、共に活動できるものがあつたらよかつたと思う。と言つても、始業二日目なら仕方がないのも、教員であつた自分には理解できる。この空間にいさせてくれることだけでも、ありがたいことなのであろう。

英語や歴史の授業後は、ランチタイムになった。中休みに食事をしている生徒も多かつたので、カードゲームをしたり談笑したり、思い思いに時間を過ごしていた。日本より自由度が高い、フランクな感じはやはり変わらない。

午後からも同様のメニューが続いた。一方的に授業を聞くだけなので、団員たちは疲れていた。授業に参加できないなら、施設見学等に変更するなど、見直しが必要に感じた。授業が終わり、それぞれ帰宅の途に就いた。夕方は、お別れパーティーである。夜は、バタバタすることが予想されるので、家に帰ったら荷物の整理をすること、パーティー後はホストファミリーにお世話になったお礼を心から述べることを団員に伝えた。

帰宅後、私も部屋に戻って荷物整理をした。何だか、寂しい気持ちがあふれてきた。居間で会話でもしていた方がよかつたのかもしれないが、気付くと少し眠っていた。17時過ぎに家を出て、再びリングフリー校へ向かつた。



学校に着く直前、急にスクールに見舞われた。今の心境を物語っ

ているようだった。続々とファミリーが集合し、会場のセッティングを行った。

そして、各ファミリーが持ち寄つた家庭料理を並べ、buffetスタイルでの食

事会が始まった。榎わかさいも本舗から無償で提供を受けた「登別閻魔焼きそば



せんべい」も好評であった。基本、ファミリーごとに固まって座り、近くの人たちと談笑しながら会食した。みんな気さくな方ばかりで、言葉でもっとスムーズにコミュニケーションが取れたらどんなによいかと強く思った。

たった数日間の中で出来上がった親交の輪が、これだけ

大きくなったのである。何年も本市の派遣団を受け入れてくれているとはいえ、今回の派遣に係り、初めてホストを引き受けたファミリーも多いと聞いた。思いが脈々と受け継がれている結果なのだと改めて実感した。

19時頃になり、アネ先生の声掛けで、アトラクションを始めることになった。今朝プレゼンを行ったホールに皆が集まり、紫乃さんの司会で始まった。桃菜さんは空手の型、紫乃さんは篠笛を披露し、会場の方々からは拍手喝采であった。

そして場が温まった頃合いを見て、鬼踊りを始めた。持参した鬼の面を配り、団員たちが中央で実演しながら、輪になって楽しく踊った。



その後も話は尽きることなく、20時頃になって会はお開きになった。来週登別市を訪問するイエスパー君をくれぐれもよろしく、とリズィさんに改めてお願いされた。また、彼が登別に来る動機付けになった、彼のお兄さん（過去に登別市を来訪したり、ホストファミリーも引き受けたりしたとのこと）とも話をする事ができた。

こういう点でも、持続可能な事業として位置付けていることを感じた。

記念写真を撮り、帰宅した。部屋で荷物をまとめていると、ファミリーの子どもたちが揃ってお休みを言いに来た。いよいよ明日でお別れなのだ、と寂しさが募った。

(7)8 / 18 (金) 7日目 別れの日 リンゲ～オーデンセ～コペンハーゲン空港

最後の朝食は、何となくしんみりした雰囲気であった。そんな中でも、エマは明るく振る舞ってくれた。そして時間になり、家に残るエリンと娘のジョセフィン、学校に行くエマとお別れの挨拶をした。本当に悲しかった。ホストファミリーには、大変お世話になった。ちょうどよい距離感で、色々な気遣いをしてくれたことに心から感謝した。自身初めての海外だったが、旅のストレスなど感じる



ことがなかったのは、このファミリーとの出会いがあったからだと感じる。

ホスト宅を後にし、リング駅に向かった。見慣れた風景がどんどん遠くなっていく。小さな駅には、もうすでにファミリーらとともに団員たちが集合していた。校長先生をはじめ、アネ先生、後からリズィさんも駆け付けてくれた。握手、抱擁、最後の会話…。それぞれのスタイルで、団員たちはホスト生徒やファミリーたちに別れを告げていた。私も、旅の無事を祈る言葉や思い出話等、たくさんの方に声を掛けていただいた。盛大に見送られて、列車は出発した。

私は、これまでの出来事を思い出してしばし放心状態でいた。列車内は、少しの間沈黙していた。じきに団員たちは声を上げて泣き始めたり、それを見てもらい泣きしたり等、各々が感傷に浸っていた。一人一人、今回の滞在で、とても充実した時間を過ごしてきたことの証である。



そうこうしているうちに、“オーデンセ”の看板が見えてきた。着いたか、と何気に降りてしまったそこは…。何と、手前の駅だった。しんみりした雰囲気が、一気に爆笑モードに。これも、今回の派遣団ならではの笑い話エピソードの一つだ。(団長としては、恥ずべきことだが…)



そのせいで、オーデンセ駅への到着が遅れてしまった。指定席を取っていた特急には当然間に合わず、駅で待っていてくれたアシストのきょうこさんに大変迷惑を掛けてしまった。(追加(笑)エピソード。列車時間の遅れは茶飯事だと述べたが、実はこの時点で隣の

乗車ホームにまだ列車がいるようときょうこさんが言った。“走って!”の号令一下、みんなスーツケースを引きずりながら、上りエスカレーターへ。しかし、何と止まっているではないか! 階段を使うが、これがまた長いものなの! 息を切らし、ようやく隣のホームへたどり着いたが、無情にも列車は走り出してしまう始末…)しかし、きょうこさんの行動力に我々は救われた。駅の方と交渉し、チケット変更をしてくれたのだ。まさに、捨てる神あれば拾う神ありである。

おかげで、時間は遅れたが無事特急に乗車できた。車内では、きょうこさんたちとの生活やコミュニケーションの考え方等について、いろいろ会話をし

た。そして、コペンハーゲン空港駅に到着。

チェックインや荷物預かり等、きょうこさんの丁寧な対応で、本当に助けていただいた。そして、セキュリティチェック入口まで見送りしてくれた。お礼とお別れを述べ、各チェックを通過した。荷物を巡って空港職員と少々のトラブルはあったが、無事空港内の No Tax エリアへ入った。

各自、お土産を購入したりして時間を過ごし、再び集合してからパスポートチェックを受けた。かなり混んでおり、長蛇の列。通過まで20分くらいかかった。飛行機への搭乗はスムーズだったが、結局15分ほど遅れての離陸。デンマークを後にした。

(8)8/19 (土) 8日目 帰国 コペンハーゲン～成田～羽田～新千歳空港

これまで無意識に気を張っていたせいか、デンマークでの役目を終えた途端に疲れを覚えた。気付くと、うとうとしていた。これからの長旅に備え、飲み物が振る舞われた後、しっかり休むことにした。

とはいえ、シートでの睡眠は十分なものにはならない。何度も目が覚め、また眠ろうとしても、なかなか寝付けなかった。時間がきて機内が暗くなったので、ずっと目を閉じていた。団員たちも同様で、思い思いに過ごしていたが、行きよりは長い時間眠っていたようである。彼らも、ほっとしたのだろう。後は、日本に戻るだけである。

飛行機に乗る前、「日本に帰ったら、絶対和食を食べよう！」と皆で話していた。何せ、滞在中は、全く米を口にしていない。白米が好きな私は、無性に温かいご飯が恋しくなっていた。



成田到着のアナウンスがあり、急いで腕時計の時刻を合わせた。行きよりは短く感じた空の旅を終え、午前9時過ぎに空港に到着した。税関等のチェックを通過し、外貨の両替も無事にできた。周囲は当然ながら日本人が多く、これだけでも日本に帰ってきたという実感がある。

リムジンバスに乗り、羽田空港を目指す。到着すると大変混雑していて、チェックインと荷物預けだけで相当時間を取られた。急いで昼食にするが、いざ探すとなかなかこれといった店がない。心なしか、あまり空腹を感じていなかったことも理由かもしれない。

ようやく、そば屋に入ることに決めたが、結構待ち時間がある。飛行機の時間が迫っていて心配したが、幸か不幸か機材練りのため30分ほど遅れが出るとのアナウンスがあった。その分、ゆったり和食を楽しんだ。「日本人、最高！！」と心で叫んだ。食欲があまりない団員もいたが、念願の日本食を堪能した。(後で分かったが、関東地方は“ひょう”が降るなど天候が悪く、それで北海道行きの飛行機にも影響が出たとのことだった。最後の最後まで、色々起こる旅だった)

結局、15時のフライトとなり、16時半近くにようやく新千歳に到着した。ここでも行きと同様、企画調整グループの澤口さんと大高さんが迎えに来てくれた。荷物が出てくるのも当然遅く、お二人と合流して空港を出発したが、登別市役所に着く予定の17時半頃になってしまった。



バス車内では、澤口さんや大高さんへの土産話に花が咲き、団員たちにも安堵の表情がうかがえた。そして、ようやく18時半頃、登別市役所に到着した。団員たちのご家族、市役所の関係の方々や中学校の教頭先生など、多くの方に出迎えていただいた。お礼と挨拶

を済ませると、多くの方から労いの言葉を掛けていただいた。団員たちは帰路に就き、私もこれで全てが終わったと心から達成感を味わうことができた。

*改めて、派遣を終えて

自身初めての外国、しかも中学生を引率して、というミッション。責任の重さに正直押しつぶされそうになりながら、何とか終わることができた。その理由は、今回縁あって同行することになった桐先生のお力はもとより、団員の森元さん、辻さん、對馬さん、宮下さん、飯尾くんという5名の団員との出会い、そして彼らの行動力が一つになったからである。そして、企画調整グループの澤口さんと大高さんには、事前から事後までの4か月余りお世話になりっ放しで、多方面のサポートがなければ、こういう結果にはなっていなかったと断言できる。

その他、この事業に携わっていただいた全ての方のお力添えがあって、無事に帰ってこられたのだと考えている。そして、私自身の人生においてもそうであるように、これからの未来を担う団員たちの人生においても、何物にも代えられない大きな経験・財産が得られたものと思う。

今回、このように貴重な機会を与えていただき、これまで登別市とデンマーク王国との間で脈々と築かれてきた友好関係を実感し、その一端を担えたという意味で大変光栄であった。今後も、この事業がますます実りあるものとして充実していくよう祈念し、まとめとしたい。



デンマーク派遣を終えて

登別市立鷺別中学校 桐 敦子

この度、中学生派遣交流団の引率者として、5名の団員、そして団長と共にデンマークでの生活を体験して来ましたが、8日間という短い期間ではありましたが、言葉も文化も何もかも異なる遠く離れた国での経験は、すべてが新鮮で刺激的なことばかりでした。団員たちにとっては、おそらく一週間以上も親元を離れることだけでも不安なはずなのに、ほとんどのメンバーが初めての海外ということで、うまくコミュニケーションが取れるだろうか、食べ物が合わなかったら・・・と、もしかしたら本人以上に親御さんの方が心配されていたかもしれません。しかし、そんな心配をよそに、子どもたちはすぐにホストファミリーと打ち解け、生活に馴染み、積極的にコミュニケーションを取っている姿に驚きました。デンマークを離れる頃には、言葉の壁を越えた心と心のつながりがしっかりできているようでした。自分の気持ちを相手に伝えたい、わかってほしいという強い思いがあるからこそ、生まれた絆であるということを実感しました。

「言葉はコミュニケーションの道具でしかない」とはよく耳にする言葉ですが、まさにその通りだと感じました。しかし、より良いものを求めようとした時、やはり道具は必要不可欠なものになってくるのだと思います。この度、団員たちは、デンマークでの国際交流を通して、お互いにより深くわかり合いたいと思える相手ができただからこそ、まさにその「道具」となる言葉の必要性を痛感していることでしょう。是非この貴重な経験をきっかけに、さらに語学への興味、関心を高め、その習得に励んでほしい、そして今後、あらゆる場面でより深い国際交流を図るために生かして行ってほしいと願うばかりです。

今回の派遣に際し、訪問団に貴重な機会と大きな励ましのお言葉を頂きました小笠原春一市長、武田博教育長をはじめ、事前・事後研修において、多大な準備と指導をしてくださった登別市総務部企画調整グループの皆様に、心より深く感謝申し上げます。



帰国報告会資料 (派遣生徒)

帰国報告会



平成29年度デンマーク友好都市交流派遣事業

登別市立鷺別中学校1年の、宮下 夏乙です。

これから、私たちがデンマークで調べてきた、それぞれの「研修テーマ」について
発表します。





デンマークのお菓子について

登別市立鷺別中学校 1年 宮下 夏乙

私は、デンマークのお菓子をテーマに、調べてきました。



デンマークのお菓子 ～チョコレート～



スーパーの棚



カラフルな包みのお菓子がたくさん

まずは、デンマークのチョコレートについてお話しします。

デンマークのスーパーマーケットに行った時、すごくたくさんの種類のチョコレートがあり、びっくりしました。

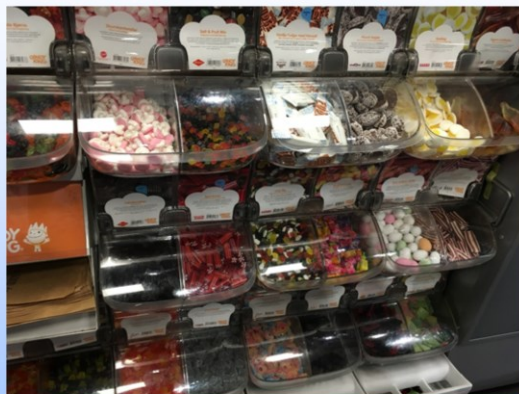
左の写真は、スーパーの棚に、箱のまま並んでいる、たくさんのチョコレートです。右は、セブンイレブンのレジの、カウンター下に、きれいに並べられたチョコレートです。

日本で見たことのあるもの、無いもの、本当にたくさんありました。

そして、わたしが試した、すべてのチョコレートが美味しくて、また食べたいと思いました。



デンマークのお菓子 ～量り売り～



量り売りのお菓子、種類もたくさん！

デンマークのお菓子の売り方で面白いのが、量り売りです。
グミやチョコレート、そしてラクリスも、こんなに、いろいろな種類があり、好きなものを欲しいだけ選ぶことができます。



デンマークのお菓子 ～量り売り～



この写真は、日本でもよく見かけるチョコレート、エム アンド エムズの量り売りです。とても色がきれいですね。



100gあたり15.95クローネなので、約300円です。

日本で売っているのは1袋40gで100円くらいなので、値段はそんなに変わらないですね。

私のホストファミリーがチョイスしてくれたものは、どれも美味しかったです。またデンマークに行ったら、もっといろいろ試したいと思いました。



デンマークのお菓子 ～名物・ラクリス!～



デンマークの代表的なお菓子は、やはり「ラクリス」です。
お菓子のコーナーには、写真よりも、もっとたくさんの種類が並んでいました。

「ラクリス」とは、甘い薬草の、根のエキスを使って、作られたもので、日本人の私の口には、合いませんでした。
しかし、デンマークの人達には、これが一番好評でした。



デンマークのお菓子 ～名物・ラクリス!～

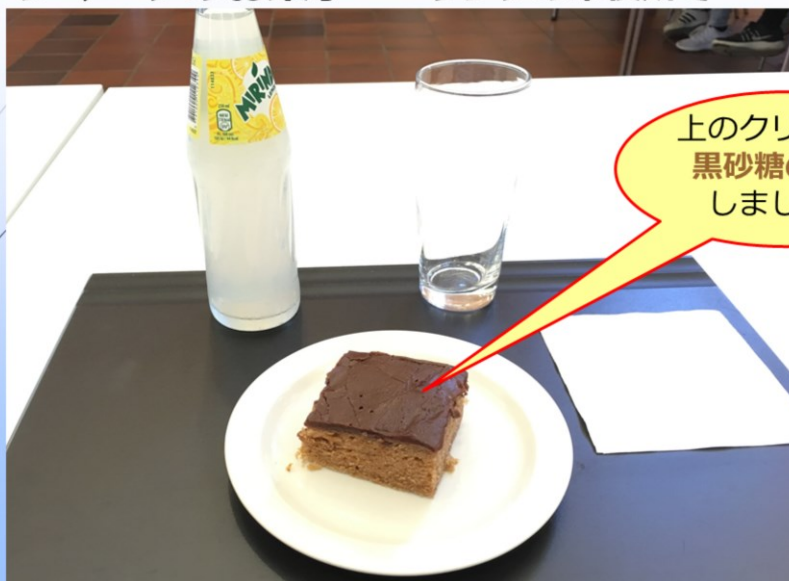


日本でもおなじみの「メントス」にも、ラクリス味がありました。

最近では、ラクリスにもいろいろなフレーバーがあり、フルーツや塩味のものまで、あるそうです。



デンマークのお菓子 ～リングゲの市役所で～



また、ファボー・ミッドフュンの市役所を訪問した時、全員にケーキとジュースを出してくれました。

このようなチョコレートのケーキです。



フォークが無いので、「あれっ？」と思って、見まわすと、デンマークの子たちは、このケーキを手づかみで、食べていたので、ビックリしました。

デンマークのお菓子 ～リングゲの市役所で～



そして、もう1つ、市長さんが、みんなに、飲み物を配ってまわってくれたこと、にも驚きました。

- -
- デンマークのお菓子の、良い思い出が、1つ増えました。
-

デンマークのお菓子 ～他にもいろいろ～



これらは、デンマークで出会ったいろいろなお菓子です。

右の写真の、丸いチョコレートのお菓子は、人気があるようで、何度も見かけました。

私が見たところ、デンマークの人達は、しょっぱいお菓子よりも、甘いお菓子の方が好きなようで、甘いお菓子の種類の方が、たくさんあったと思います。



「デンマークのお菓子」は、



- ・ **甘いお菓子の種類が**たくさんありました。
- ・ **国や生活習慣が違くと味覚や好みも大きく変わるのだ**ということを実感しました。

私の味わった「デンマークのお菓子」は、日本には無い味のものも、たくさんありました。

そして、自分の好きなお菓子も、そうでないものも、いろいろありました。

デンマークの人達が大好きなラクリスは、私はあまり好きには、なれませんでした。このように、国が違くと、好みもかなり違うのだ、ということを実感しました。

これで、私の発表を終わります。

次は、辻 桃菜さん の発表です。





デンマークと日本の気候や生活の違いについて

登別市立登別中学校2年 辻 桃菜

登別市立登別中学校2年生の 辻 桃菜です。

私は「デンマークと日本の、気候や生活の違い」について調べてきました。



デンマークの気候 ～気温の違い～



☀️快晴のイーエスコー城



☀️窓からの美しい景色

はじめに、デンマークの気候について、お話しします。

真夏にあたる8月は、日本では一日中、とても暑く、雨も長い時間降ります。それにくらべると、デンマークは、昼間太陽が出ているあいだは暑かったのですが、朝晩はぐっと気温が下がり、長袖の上着が無いと、寒く感じるほどでした。



デンマークの気候 ～雨の日～



🌧️雨のチボリ公園🌧️



雨が降っていても、めったに傘は差しません

本格的に雨ふりの天気だったのは、デンマークに着いた初日、チボリ公園に行った時だけ。それでも、乗り物にたくさん乗って楽しみました。
それ以降は、毎日良い天気恵まれて、私たちはとてもラッキーでした。

そして、雨の時に傘をさす人を見かけないのが、日本と違うところでした。



デンマークの気候 ～昼間の長さ～



他に気づいたことは、昼間の時間がとても長いということです。

私たちがリングを訪れていた間、日の出の時間は朝5時頃、日が沈んで暗くなり始めるのが、だいたい夜の9時過ぎでした。緯度の高いところにある国なので、完全な白夜は無くても、夏の1日の明るい時間は、日本に比べて、ほんとうに長く感じました。



デンマークの夜の8時は、日本の夕方5時頃と同じような明るさです。



このように、8時を過ぎても、みんな外で遊んでいました。



デンマークのスーパー ～商品は業務用?!～



コペンハーゲンの
スーパーマーケット外観



次に、デンマークの暮らしについて紹介します。

デンマークのスーパーマーケットは、とにかく売っている物が、1つ1つどれも大きいという印象でした。

段ボールや大きい箱のまま、商品が並んでいて、家庭用とは思えないほどでした。



デンマークのスーパー ～とにかく大きい商品～



例えば・・・

このように、ヨーグルトが、バケツのような容器に入っていたり・・・。

大きさは、日本で人気のフライドチキンの“パーティ・バレルくらい”と言え、わかかってもらえるでしょうか？



ケチャップなども、日本の業務用サイズぐらいの物が、普通に家庭用サイズとして売られていました。



日本の普通サイズはだいたい500グラムくらいですから、2倍の大きさです。

あとから、ホストの家のテーブルにのっているのを見つけて、なんだか面白かったです。



デンマークのスーパー ～買い物カゴの違い～



日本とまったく違うと思ったのは「買い物カゴ」です。

日本のように手で持たずに、カゴの底に車輪がついていて、そのまま、右の写真のように、お店の中を引いて歩くスタイルでした。

たくさん買ったり、重いものを買ったりする時は、便利だと思いますが、1つ2つの買い物には大きすぎると思いました。



デンマークのスーパー ~レジの違い~



レジの仕事はイスに座って



少し緊張、でも、無事に買い物できました！

レジのシステムも、日本と違いました。

日本では、カゴを台に乗せると、レジの係のひとが全部やってくれますが、デンマークでは、お客さんが自分で、商品をベルトコンベアに乗せて、レジを通してもらいます。

そして、お金を払うと、コインのお釣りは機械から出てきて、お客さんが自分で取ります。

ただし、お札のお釣りはレジの人が数えて手渡していました。

日本でも、レジから自動でお釣りの出てくるお店が増えましたが、お金は必ず手で、ていねいにお客さんに渡します。

こんなところにも、それぞれの国の習慣の違いを感じました。



デンマークの暮らし ～誕生日を祝う～



テーブルクロスも、ろうそくも
デンマークの国旗柄



誕生日を迎えたひとが、
ろうそくの火を吹き消すのは日本と同じですね！

もう1つ、他のメンバーが経験した、ホストの「誕生日」についても紹介します。

誕生日の朝、家族みんなで歌を歌いながら、その子を起こしに行き、ベッドの上でプレゼントを渡します。

そして朝ご飯の時に小さなケーキを食べ、

夜には、また大きなバースデイケーキを食べたそうです。

この日だけは、テーブルクロスやナプキン、ろうそくのもようがデンマークの国旗柄になっていたそうです。

このあと、子供たちは、ダンスを踊って楽しんだとのことでした。

プレゼントを渡すために、部屋に起こしに行ったり、朝にもケーキを食べたり、ずいぶん日本と違うところがあるなと思いました。



私を感じた「デンマークの気候や生活」は、

日本にくらべて…



- ・真夏でも、朝晩や太陽が隠れると、長袖が必要なほど涼しかったです。
- ・毎日の生活の中で、日本と違うところをたくさん発見できて楽しかったです。

私がホームステイで体験したデンマークの暮らしは、いろいろ発見があって、本当におもしろかったです。

一週間ほどの短い滞在でも、あれこれ、日本の生活との違いを、見つけることができました。

いつかまた、今度は、できれば違う季節に訪れて、もっといろいろな違いを探してみたいと思います。

これで、私の発表を終わります。

次は、飯尾 拓翔くん の発表です。



デンマークの食べ物

登別市立緑陽中学校1年 飯尾 拓翔

登別市立緑陽中学校1年、飯尾拓翔です。

僕は「デンマークの食べ物」について、報告します。
日本とは違うものが、いろいろありました。



デンマークの朝食 ～シリアルやパンなど～



デンマークの朝食と昼食は、毎日ほとんど同じものでした。

朝は、たいてい、このようなシリアルでした。牛乳をかけたり、ヨーグルトをかけたりして食べました。



デンマークの昼食 ~とにかくサンドウィッチ~



お昼ごはんに持たせてくれたお弁当は、毎日サンドウィッチでした。
ある日のお弁当は、こんなシンプルなものでした。



サンドウィッチに、リンゴやバナナなどの果物、飲み物、たまに、生のニンジンが付いていました。



デンマークの夕食ランキング ~第3位~



5日間のホームステイ中に食べた夕食で、特に気に入ったものを、ランキングで3つほど紹介したいと思います。

まず、第3位は、黄色くて、うす味のカレーのようなソースがかかったミートボールです。

ホストの家に着いて、最初の夕食だったので、印象に残っています。



デンマークの夕食ランキング ~第2位~



第2位は、パンです。

上の写真はけっこう硬くて、フランスパンのようですが、日本では食べたことの無い味のパンでした。ホストマザーがバターを塗ってくれて、少しニンニクの風味がして、とても美味しかったです。

下の写真2枚も、ホストの家の食事が出てきたパンです。



デンマークの夕食ランキング ～第1位～



第1位は、小さなハンバーグのような料理です。

●
デンマークの家庭料理で、フリカデラというそうです。

とても美味しくて、気に入ったので、ホストのお母さんに、そのことを伝えたら、とても喜んでくれて、リングを発売朝、サンドウィッチにして、お弁当に持たせてくれました。

これは、どの食事よりも大好きになって、僕の印象に強く残りました。

●

お別れパーティのごちそう ～家庭の味、いろいろ～



お別れパーティでの食事も、とても楽しかったです。

ごちそうは、各家庭から料理をもちより、写真のようにバイキング形式でした。グラタンやサラダ、フルーツやケーキなど、いろいろなものが並びました。

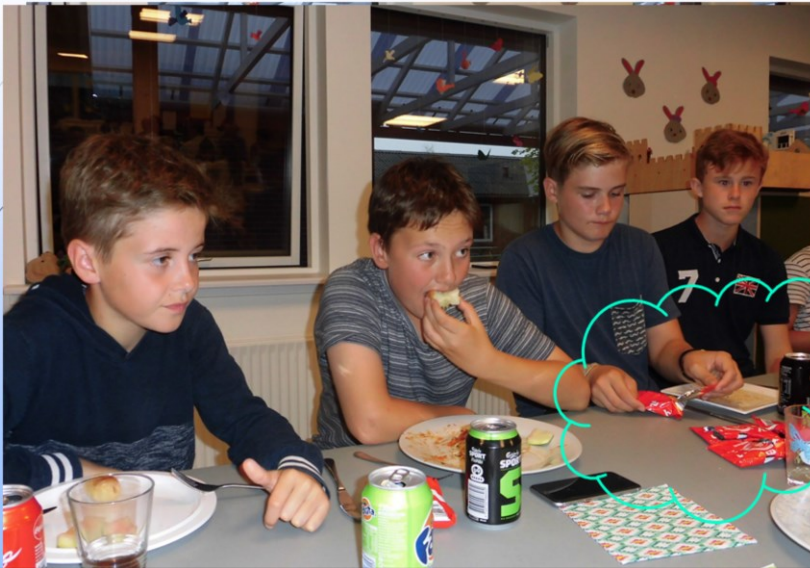
●
僕も、ホストの生徒と一緒に、いろいろお皿に取りました。

●
こんな感じになりました。大好きなフリカデラが、左はじに2つ乗っています。

●
7学年のおうちの人達に感謝です。

●

“登別閻魔焼きそばせんべい”にトライ！



このお別れパーティには、「登別えんま焼きそばせんべい」を、おみやげに持って行きました。

そして、みんなに食べてみてもらいました。



写真では、右から2番目のクラスメイトが、袋を開けています。

さて、気に入ってもらえたでしょうか？



結果は、この笑顔とグーサインでした。

ちょっと辛いおせんべいは、

男の子たちには、なかなか好評でしたが、

女の子たちには、辛すぎたようでした。



僕が食べた「デンマークの食べ物」は、



- ・朝食と昼食は、ほとんど毎日同じものでしたかわりに、夜はいろいろなものを作って、食べさせてくれました
- ・僕のホストの家では魚よりも、肉や野菜、果物などが中心の食生活でした。

写真を見返してみると、お肉や野菜、果物などが写っていますが、魚がひとつもありません。海のある国だし、魚も売っているのだろうけれど、1度も出てきませんでした。

僕のホストの家では、魚はあまり食べないということがわかりました。

そして、食べなれた日本食の美味しさをあらためて実感した旅でした。

これで、僕の発表を終わります。

次は、対馬 凜胡さんの発表です。





デンマークの学校の様子について

登別市立緑陽中学校2年 對馬 凜胡

登別市立緑陽中学校2年、對馬凜胡です。

私は「デンマークの学校」をテーマに、
いろいろ調べてきました。●

リングフリー校の一日 ～朝の全校集会～



これは、ホストステューデント達が通うリングフリー校です。
校舎も庭もとてもきれいな学校でした。



これは音楽ホールです。
ここで毎朝、全校集会があり、先生と生徒全員で、歌を歌って一日が始まります。



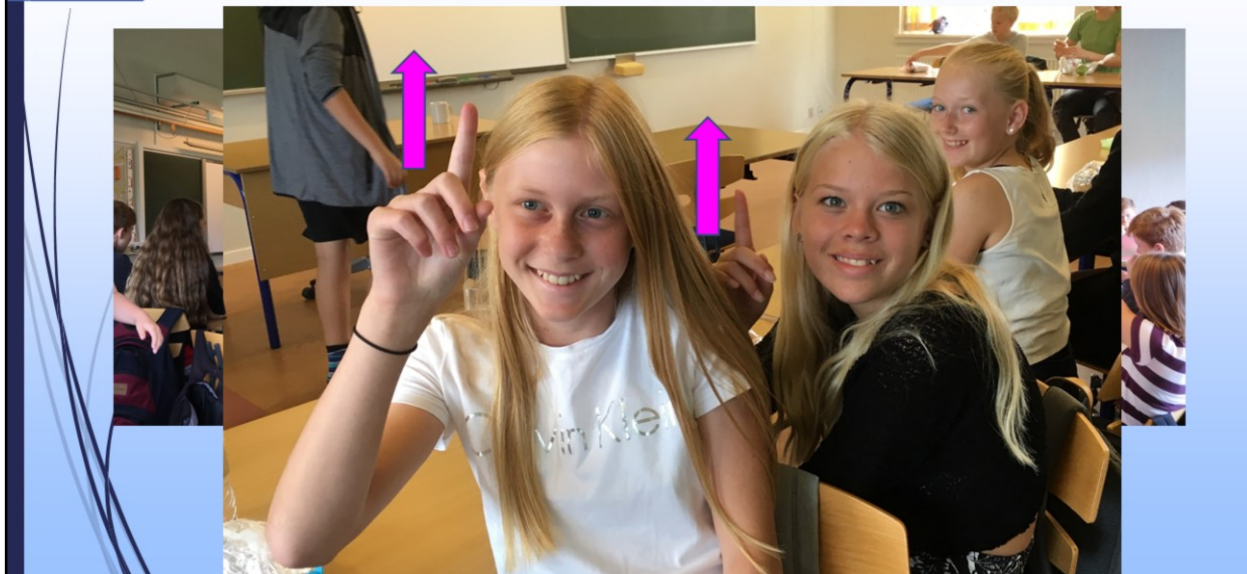
私たちの発表もここで行いました。
写真が小さいですが、真ん中でスピーチしています。



反対側から見ると、こんなに広いホールだということがわかります。



リンゲフリー校の一日 ～授業のようす～



これは、リンゲフリー校での授業のようすです。

左は、新学期初日の教室で、
いろいろ説明を聞いているところです。

右は、通常の授業です。

生徒みんなが、それぞれのパソコンを持ち込んでいました。

●

そして、どの生徒もみんな、自分の意見をたくさん言っていました。参加型の授業
なんだな、と感じました。

ひとつ、日本と違ったのは、手の挙げ方です。

●

このように人差し指を上に向けるのがデンマーク式でした。

●

リングフリー校の一日 ～ランチタイム～



リングフリー校でのランチタイムは、私たちの学校のように給食はありません。全員家からお弁当を持ってきます。どの生徒のお弁当も、それほど違いは無く、だいたいこんな感じでした。

右下の袋に

-
- うわさの「生のニンジン」が2本も入っています。
-

日本では、決まった時間に、全員で給食を食べますが、リングの学校では、10時過ぎの中休みにお弁当を食べる子もいたり、どこかへ出かける時に、道を歩きながら、果物を食べる子もいたりして、なかなか自由だな、と思いました。

-

リンゲフリー校内の施設 ～体育館～



球技用



多目的用



床運動用

リンゲフリー校の施設はとてもきれいで、充実していました。

まず、体育館が1か所だけではありません。このように目的別にいろいろありました。



リンゲフリー校内の施設 ～トランポリンなど～



私たちも、この体育館の床に作られたトランポリンで、遊ばせてもらいました。
自分たちの学校には無いので、何度も跳んで、みんなで楽しく過ごしました。



他にも、こんな感じで、いろいろな運動ができる設備が整っていました。
体操や球技など、体育関係のことに、とても力を入れていると感じました。



リンゲフリー校内の施設 ～外の遊具など～



校舎の外もとても充実しています。

休み時間には、たくさんの生徒が外に出て遊んでいました。



遊具もこんなに種類があります。写真以外にもたくさんありました。



こんなバスケットゴールもありました。



私が訪れた「リングフリー校」は、
日本にくらべて…



- ・運動施設がとても充実していました。
- ・生徒が積極的に授業に参加していました。
- ・机の上の飲み物やお弁当を食べる時間、服装など、とても自由な雰囲気でした。

私が訪れた「リングフリー校」は、体を動かすための施設がとても充実していました。

授業中の机の上には、常に飲み物が出ていたり、お昼の時間じゃない時に物を食べたり、とても自由な雰囲気を感じました。

また、生徒たちが積極的に手を挙げて、発言しているのを見て、参加型の授業だなと思いました。

これで、私の発表を終わります。
次は、森元 紫乃さんの発表です。



デンマークの音楽について

北海道登別明日中等教育学校2回生 森元 紫乃

北海道登別明日中等教育学校2回生、森元紫乃です。

私は、「デンマークの音楽」に触れてみようと、耳を澄ませながら、いろいろ調べてきました。



① リンゲフリー校 ～朝の集会



はじめに、リンゲフリー校で参加した「朝の集会」のようすについてお話しします。

新学期がスタートする日に、初めてリンゲフリー校へ行きました。
音楽ホールに生徒全員が集まり、スクリーンのプログラムに沿って、**歌を6曲ほど**
歌いました。



① リンゲフリー校 ～朝の集会

日本語

Sa-ku-ra!

Sa-ku-ra!

Ya - yo - i no so ra - wa,

Mi - wa - ta - su ka - ghi - ri;

Ya - yo - i no so ra - wa,

Sakura



デンマーク語

Gå med mig du og jeg.

Blomsterskaren viser vej.

Travle sjæle ser den ej.

Lille blomst så lyserød

med en duft så liflig sød.

Blomster her, blomster der

på kirsebærtræer.

曲の中には「さくら、さくら」もありました。



ちょうど下から2番目に表示されています。



このように、デンマーク語と日本語の歌詞が表示されて、みんなで歌いました。



① リンゲフリー校 ～朝の集会



歌の伴奏は、先生たちが弾くピアノやバイオリンなどです。



① リンゲフリー校 ～音楽ホールの楽器



ホール内には、グランドピアノの他、ドラムやギターなど、いろいろな楽器が置いてありました。



② ノーアエア校での交流



次は、ノーアエア校での交流のようすです。

私は、ノーアエア校で、凜胡さんと一緒に、日本の音楽について紹介しました。嵐やSMAPについて、話しをしましたが、デンマークの生徒達は、日本のアーティストをまったく知りませんでした。

でも、アメリカやイギリスのミュージシャンについては、日本人の私たちと同じように、みんなよく知っていました。



写真は、星野源の「恋ダンス」を、ノーアエア校の生徒達の前で披露しているところです。



③ デンマークのCDショップ



これは、ホストが連れていってくれた、CDショップです。
デンマークだけでなく、イギリスやアメリカのミュージシャンのCDもたくさん並んでいました。

-
- CDの他に、ヘッドフォンなど、いろいろな物も売られていました。
-

③ デンマークのCDショップ

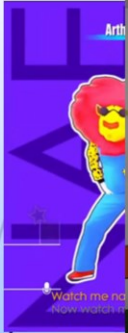


日本でも見慣れた、こんな商品も並んでいました。

- 音楽CDは1枚が、だいたい59.95クローネ、日本円で1000円位でした。

- ※通貨単位: Krone(クローネ)→Ore(オレ)

④ Just Dance ~Wiiのダンスゲーム



テレビやスクリーンに、左のような画面が映しだされ、それに合わせて踊るWiiのゲームを、ホストの生徒達みんなと楽しみました。
中には、「初音ミク」の曲もありました。



去年、世界中で大ブレイクした「ピコ太郎」のこともみんな知っていて、お別れパーティの時にみんなで踊りました。



いつも身近にある楽器や音楽



左の写真は、リンゲの街なかで見かけた楽器で、公園の遊具のように、誰でもさわることができます。

このように、いろいろな楽器が身近にあり、また、家族や友達が集まると、そこには必ず音楽がありました。



お別れパーティで、私は篠笛を披露しました。

日本の音楽を楽しんでもらえて、お世話になったリンゲのみなさんに、少し恩返しが、できたかなと思います。



私が感じた「デンマークの音楽」は、

日本にくらべて…



- ・音楽もダンスも、皆にとって身近にあり、いろいろな楽器さえも気軽にさわれる環境がありました。
- ・日常の暮らしのなかに、常に音楽がありました。

私が耳を澄ませてリサーチした「デンマークの音楽」は、音楽そのものも、ダンスも、そしていろいろな楽器さえも、日本よりずっと身近にあるものと感じました。

これで、私の発表を終わります。



ご清聴ありがとうございました！



そして、私たち生徒5人の発表を、これで終わります。

ご清聴ありがとうございました。

帰国報告会資料 (引率者)

新たな目を開く

～自分の殻を破る



平成29年度デンマーク友好都市派遣交流



8. 12～19までの8日間、派遣団7人で行ってまいりました。

本市登別市と友好都市であるファボー・ミッドフュン市において、現地の方々との親善交流、併せて団員の研修を深めていくことが目的です。

7名全員がホストファミリー宅でのホームステイを経験し、有意義な時間を過ごしてまいりました。

この発表は、派遣団団長の私小野島が前半を、後半は同じく引率の任に当たりました鷺別中学校の桐先生が行います。

当日の雰囲気の皆様にお伝えできるよう努めますので、お付き合いください。

「学び」と「成果」

- ① コミュニケーション
- ② 多様性・ものの考え方
- ③ 日本人として



今回、私は団長として引率しましたが、個人的にも大きな気付き・学びがありました。

3月まで幌別小で教員をしていたこともあり、特に日を追うごとに見せる団員たちの成長には、刺激を受けました。

自分の実感を通して、大きくこの3点について考えさせられました。

まず、言葉はコミュニケーションの一つの手段でしかないということです。伝えたいという意志、相手を知りたいという思いが大切だと実感しました。だからこそ、共通の言葉で話したいと強く思いました。恥ずかしがる必要はない、間違ってもいいから話すよう現地の方によく言われました。これで、とても楽になりました。また、本当に親切で、温かい方ばかりでした。デンマークの方は、こちらの思いや行動を尊重してくれました。人の価値観はいろいろだ、という多様性の理解、そして相互理解できる広い心をもつことが大切だと感じました。これが真の国際理解の基本ではないかと考えます。であるからこそ、日本人の奥ゆかしさも大切です、外国の方に伝えたいと心から思いました。

他の職員の方にも、ぜひ団長としてこういったことを実感してほしいと強く思いました。これから社会に出ていく子どもたちには、グローバルな感覚、積極性をもって相手に関わる姿勢がとても大切になると考えます。団員たちも、日本語が通じないことで、何とか相手に思いを伝えようと努力していました。きっと、程度の差こそあれ、みんな同じように積極性の大切さを感じたのではないかと思います。私の立場では、ここでの気付きや学びを、これから本格的に始まる小学校の外国語教育の実施に向けた準備の中で、生かしたいと考えています。さて、前段が長くなりました。ここから、1日ごとのエピソードを厳選してお伝えしていきます。

①8月12日(土)

期待と不安と…



コペンハーゲン到着！

出発当日。天気が心配でしたが、雨に当たることなく、市役所を後にしました。ここまで事前研修で準備を済ませたとはいえ、まだ楽しみ半分、不安半分といった感じの旅立ちでした。初めは静かだったバスの中も、徐々に会話生まれ、よい雰囲気でのスタートでした。新千歳から成田、そして12時間かけてデンマークのコペンハーゲン空港に到着しました。機内スタッフはほぼ外国人で、外国に向かうのだなという思いが強くなりました。

駅構内



コペンハーゲン
市内のようす

駅舎



自転車がたくさん...



街並み



現地アシストの方と合流し、電車に乗り、コペンハーゲン市内に移動しました。
建物の外観や人々の生活の様子を目にし、改めて本当に外国に来たんだな、と実
感が湧いてきました。
そして、日本との違いを感じました。

チボリ公園 ～最古の遊園地、ディズニーランドのモデル



ホテルに着き、一休みしてから、デンマークの人たちの憩いの場と言われるチボリ公園に向かいました。
途中からあいにくの雨でしたが、団員たちは長旅の疲れも見せず、全員が乗り物フリーパスを購入！
目いっぱい楽しんだようです。時差全く関係なし！です。
21時頃までいましたが、なかなか暗くならないため、時間感覚がおかしくなりました。



②8月13日(日)

いよいよ…

a t オーデンセ



二日目。

ホテルを出発し、この日はオーデンセ、その後リングゲに移動し、いよいよホストファミリーとのご対面です。

団員たちはよく眠れたようで、一安心でした。ホテルの朝食は、パンやサラダ等、種類が豊富で大変おいしくいただきました。

アシストの方とホテルを出発し、駅へ移動。1h30m電車で揺られ、アンデルセンの故郷オーデンセに向かいました。

オーデンセは島にあるため、途中海を越えました。天気も良く、最高の景色でした。オーデンセはおもちゃの建物が並んでいるかのような街並みでした。

ホスト7学年生徒と…

小さな国際交流



アンデルセンにふれる



オーデンセ駅では、お世話になるリングフリースクールのアネ先生、そして交流する7学年のホスト生徒たちに迎えられました。(小旗を見せる)
初めはお互い緊張気味でしたが、見学後半ささやかな国際交流、いやお菓子交換からきっかけをつかみ、距離を縮めていきました。
みんなで歩き回り、アンデルセン博物館など市内を見学しました。
昼食は、みんな一緒の大きなサンドウィッチ。▼人目をはばからず、大きな口で思い切り頬張りました。



リングェ駅に到着
大歓迎を受ける



緊張の
ファースト・コンタクト



市内見学を終え、アネ先生、生徒たちとともに電車に乗り、リングェへ向かいました。駅に着くと、ホストファミリーをはじめ多くの方に熱烈な歓迎を受けました。リズィさんの目力には圧倒されました。この後、団員たちは、ホストファミリーに導かれ、あっという間に消えていきました。桐先生と私も、まずアネ先生の家へ、そしてホストファミリーの家へ向かいました。この時点で、私は相当ドキドキしていたのですが、前日やっと決まったホストファミリーに温かく迎えられ、緊張がほぐれました。と同時に、団員たち、大丈夫かな～、と少し心配でした。



ホスト宅での初日の翌朝



一気に距離が縮まる

③8月14日(月)



三日目。

ホスト宅での初日を過ごした団員たちは、元気にリングフリー校に集合しました。声を掛けると、思いのほか楽しく過ごせたとのことで、ほっと一安心でした。ホストファミリー同士のつながりがあり、ホスト生徒とともに団員全員が夕方に集まれたようで、精神的に楽だったようです。

ほぼ終日レゴランドで過ごすこの日は、朝8:00にリングフリー校に集合。1m30hバスに揺られて現地を目指しました。

本場のレゴランドへ



本場のレゴランドは、まさしく巨体テーマパーク！でした。広大な敷地と人、人、人に圧倒されました。
この日は、夏休みの最終日だったようで、平日にもかかわらず大変混雑していました。
とにかく、どこを見てもレゴブロック。▼ごみ箱まで、レゴでした。
団員たちは、リング校の生徒と行動を共にし、ここで一気に距離が縮まったようです。



広大！！

レゴブロックでできた街並みが続き、時計塔やオブジェだけでなく、乗り物や体験ブースなど、飽きさせない施設が多くあり、5時間の滞在時間もあっという間でした。

文化の交流

タイトな1日

④8月15日(火)



ノーアエア校にて

四日目。

デンマークに来て、ちょうど半分です。

この日は訪れる場所が多く、しかも移動は全て歩きだったため、くたくたでした。

まず、ノーアエア校を訪問。ホスト生徒たちの通うリングゲフリー校は私立ですが、ここは公立の学校です。▼校内の施設を見学の後、団員はリングゲ校のホスト生徒とともに、この学校の生徒たちとグループになり、日本の年間行事、音楽をテーマに調べて相互に発表する活動をしました。

小さい子たちと



森の幼稚園



次に、森の幼稚園を訪問しました。
言葉は通じませんが、遊びが共通の言葉です。小さい子たちとしばし童心に帰って遊びまわり、昼食をとって、移動しました。

ファボー・ミッドフュン市庁 訪問

友好都市交流



登別市と友好都市であるファボー・ミッドフュン市庁舎では、リングゲ校に新しく赴任する校長先生も合流しました。

庁舎では広間に通され、市長から歓迎の言葉と一人一人にプレゼントをいただきました。

私は派遣団を代表して、小笠原市長からの親書と贈り物を手渡しました。

ケーキや飲み物が振る舞われ、終始和やかな時間になりました。

図書館 & 老人ホーム



このほか、図書館、老人ホームへの訪問、街散策を楽しみました。
特徴的でおしゃれな建物が多いものの、個々に主張し過ぎず、調和した街並みを歩いていると、時間がゆったり流れている感じがしました。

⑤8月16日(水)



音楽ホールでの
モーニングソング

五日目。この日は、フリースクールの新年度初日でした。
新1年生にとっては、初めての登校日で、保護者の方もたくさん来ていましたが、
日本のような入学式や始業式はありません。
朝、音楽ホールに集合し、みんなで6曲ほど歌を歌いました。その中の1曲になん
と“さくら”があり、日本語で上手に歌っていて驚きました。



ジムのトランポリン
で大はしゃぎ!



その後、長〜い休憩時間を挟んで、アネ先生が校内を案内してくれました。
きれいでおしゃれな内装に、みんな目を輝かせていました。中でも、みんなのテンションが最高潮に達したのは、ジムのトランポリンです。
トランポリンは、各家庭の庭にもあり、デンマーク人にとっては身近なスポーツのようです。

EGESKOV



午後からは、それぞれホストファミリーの車でイーエスコー城へ向かいました。
お城の中は、博物館のようになっていて、アネ先生のご主人が案内をしてくれました。

⑥8月17日(木)



6日目。ついに登別市を紹介するプレゼンテーション発表の朝を迎えました。事前研修では、この日のために何度も何度も練習を重ねてきました。たくさんのリングフリー校の生徒を前に、緊張した様子でしたが、一人一人堂々と、見事にやり遂げました！
これまでの練習の中で、一番の出来だったのではないのでしょうか。

プレゼンテーションが無事に終了し、続いて歌の披露の時間となりました。ここでハプニングが発生！準備していったCDが、機材のトラブルによりかからなくなりました。
急遽、音源無しで「さくら、さくら」と「世界に一つだけの花」を熱唱。団長によるアカペラの前奏を聞いて、みんな腹をくくり、最後まで一生懸命歌いました。
みんなの力で、ハプニングも無事に乗り越えられました。



そして、通常の授業が始まりました。

左の写真は、英語の授業です。みんなバッグから自分のパソコンを取り出し、夏休みの思い出についてのスピーチ原稿を作って発表していました。

英語以外の授業はデンマーク語で行われるため、日本人の団員にとっては見ているだけの少々つらい時間だったようです。

ようやく最後に体育館で、体を動かすことができました。体を使ったゲームでは、言葉は必要なく、子ども同士で盛り上がっていました。

Farewell Party ♪



その夜、リングフリー校にてお別れパーティーを開いてくれました。
お世話になったホストファミリーや先生方、大勢の方が集まってくれました。
各家庭で、それぞれ料理を持ち寄ってくれていて、ビュッフェスタイルでたくさんいただきました。
登別から持って行った「閻魔焼きそばせんべい」も、子どもたちに好評だったようです。



全員で輪になり 鬼踊り♪



パーティーも終盤に差し掛かったころ、私たちの最後の出番がやってきました。
桃菜さんを先頭に全員で空手の型、そして紫乃さんが篠笛で「もののけ姫」を演奏しました。

どちらも日本の文化が伝わる素晴らしい発表で、大きな拍手が鳴り止みませんでした。

そして締めくくりは、毎年恒例の鬼踊り。
大人も子どもも、みんな鬼のお面をかぶって、汗をかいて踊っていました。

⑦8月18日(金)



あっという間に、別れの朝がやってきてしまいました。

つい5日前に、不安いっぱいに対面したホストファミリーと、今度は固いハグで涙のお別れです。

このたった数日間で生まれ、深まった友情は、団員一人一人にとって一生の宝になるに違いありません。

リングのみんなに思いっきり手を振り、電車が動き出した時、堪えていた涙を抑えきれず、みんなで声を上げて泣きました。

デンマークでのすべての思いが、この涙に詰まっていたように思います。

Mange Tak !!

今回のデンマーク派遣を通して、ただの旅行では決して経験することのできない、貴重な体験をさせて頂きました。このような機会を与えてくださり、本当に感謝しております。これまで長い間かけて育んできた登別とデンマークの友好関係づくりの一端を担えて大変光栄です。

改めて、この事業に携わっていただきましたすべての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

友好都市協定書

デンマーク王国リング市及びウイスリング市と日本国北海道登別市は、1997年に「友好の絆」を交わして以来、リング・ウイスリング・登別友好協会と登別デンマーク協会との両協会の活動を積極的に支援し、双方の市民の友好と相互理解を深め、友好交流を積み重ねてまいりました。

これらの交流は、両市民の文化・教育の面においても拡がりを持たせるものであります。

この度、リング市、ウイスリング市が近隣のまちと合併し、ファボー・ミッドフン市として誕生したことを記念する年になお一層両市の絆を強め、ファボー・ミッドフン登別友好協会（旧リング・ウイスリング・登別友好協会）と登別デンマーク協会の積極的な支援を継続するとともに、両市の相互理解と信頼のもとに市民交流、文化交流の推進を目指し、ここに友好都市協定を締結します。

平成19年(2007年)6月10日

The Establishment of Friendship Agreement

Since the signing on the Bond of Friendship between the municipalities of Ringe/Ryslinge and Noboribetsu City in 1997, our three cities have been positively supporting the activities of both the Ringe/Ryslinge-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association to deepen mutual understanding and build up friendship among our peoples, and the fruit of the activities has extended to cultural and educational fields.

According to the formation of the new Municipality of Faaborg-Midtfyn, both our cities will strengthen the ties of friendship even more, and continuously maintain the activities of both the Faaborg-Midtfyn-Noboribetsu Friendship Association and the Noboribetsu Denmark Association. Our goal is promote friendship and cultural exchanges based upon mutual appreciation and reliance.

In accordance with the above mentioned guiding principles, The Municipality of Faaborg-Midtfyn and The City of Noboribetsu will subsequently outline a more elaborate description of the fields of co-operation and how the goals of the agreement is best achieved.

We hereby give our signatures on the Establishment of Friendship Association.

June 10th, 2007



ファボー・ミッドフン市長
Mayor of Faaborg-Midtfyn
ボー・アナスン
Bo Andersen



登別市長
Mayor of Noboribetsu
上野 晃
Akira Ueno